

「まぶはい」の できるまで



皆さまは「まぶはい編集委員」がどんな人達でどんなことをしているかご存知ですか？現在「まぶはい編集委員」は14名在籍しており（2016年2月現在）、3つの班に分かれて活動しています。毎号1班ずつ交代に編集しているので、3ヶ月に1度ずつ編集担当が回ってくるという仕組みです。現在、在籍している編集委員のほとんどは駐在員の奥様達ですが、日本人会会員であれば男女問わずどんな方でも編集委員になることが可能です。

さて、編集作業についてですが、まず『まぶはい』本誌は主に以下のような内容で構成されています。

項目	概要	担当
①特集	毎月違ったテーマを色々と特集	編集委員
②寄稿文	ハロハロ、面白い話、MJS 学校便りなど	多数 原稿収集理事が依頼&回収(MJS 学校便りを除く)
③あの店この店	気になるお店を紹介	編集委員
④マサラップ・キッチン	お手軽レシピを紹介	編集委員
⑤サークル&ライブラリーだより	サークルや図書館の紹介	各団体
⑥診療所だより	診療所からお届けする医療のお話	診療所
⑦理事コーナー	自由なテーマでお届けする理事のお話	理事 (毎月持ち回り)
⑧理事会ノート	定例会議の議事録	事務局

この中で、私達編集委員は①特集、③あの店この店、④マサラップ・キッチンを担当しています。[それ以外の部分のうち、②の寄稿文については毎号「原稿収集理事会社」と呼ばれる理事※の方々やその会社の皆さまが持ち回りで原稿収集を担当してくださっています。

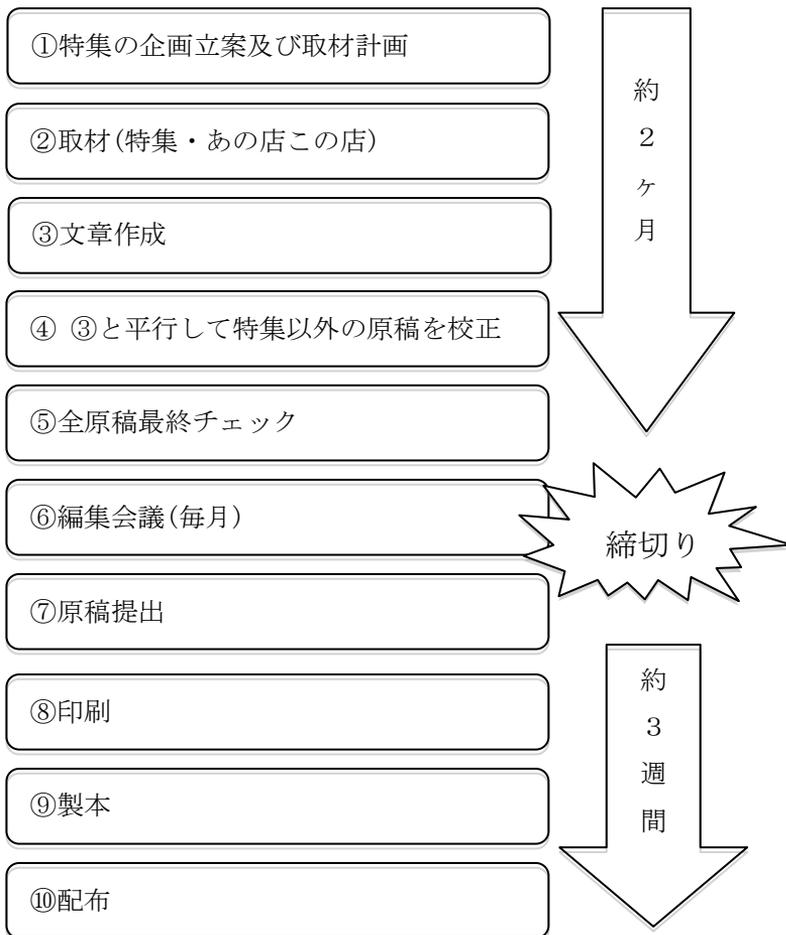
そして、すべての原稿を集め、最終的に一冊の会報にまとめあげるのも、私達編集委員の仕事です。



※日本人会の会員から選出された理事と推薦理事

編集委員の仕事の流れ

私達の大まかな作業及び仕事の流れは以下の通りです。



特集の企画立案および取材計画

まずは誌面トップの「特集」のテーマから決めていきます。アイデアのストックがある場合はまれで、ほとんどの班が毎月頭をひねってしぼり出しています。他の班と重複を避けるために、担当月の2ヶ月前にはテーマを決めるようにしています。

同時に「あの店・この店」の取材先も探します。新規オープンの店、外国人の友人のロコミなど、何かいい情報はないかとまさに「耳はダンボ・目は皿」の状態。取材先の周辺の治安も考慮して選定していきます。



取材

テーマが決まったら行動開始！必要に応じて関連各所にアポを取ります。私達のコネクションだけでは限界がある場合は、事務局や理事の方々などにも助けていただき取材を進めていきます。また、アンケートを必要とする取材の場合は、友人、家族の同僚、



メイドさんやドライバーさんにも声を掛け、100を超える数の回答を集めることもあります。一見大変そうですが、メンバーで分担して「楽しみながら」やっていると、想像以上にすんなりと進めることができるものです。

そして取材の醍醐味は、行ったことがないところ、会ったことがない人に巡り会うことができる点です。インタビュー特集(2014年11月)、空港特集(2015年9月)、アンティポロ特集(2015年6月)、選挙特集(2016年2月)はその最たる例と言えるでしょう。最初は手探りの取材も、慣れてくると長年眠っていた「知識欲」がどんどん沸き上がってきて、段々と取材が楽しくなり、メンバーからも多種多様な案が飛び出してくるようになります。そうなるともうこっちのもの。次にやってくる(気が重い!?) 文章作成作業もなんとなく骨子が見えてきます。



文章作成



まぶはい編集委員をやっていると、頻繁に「大変そうだね?」と言われます。その意味の大部分を占めているのは、おそらくこの「文章作成」だと思います。

確かに気軽にできる作業ではありません。なぜ学生時代に文章作成のスキルを伸ばしてこなかったのか!?!と自分を責めること数知れず。また文章は好きだけでもそれは読書だけで、書くのは専門外という人も。諸手を挙げて文章を書きたいという人が少ない中、どうやって記事が出来上がった

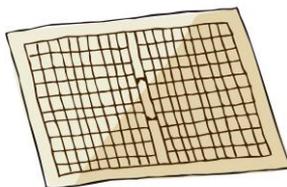
ているかという、やはり「チームプレー」です。班によって一人一人の執筆量は異なりますが、多くの場合「分担制」をとっており、助け合いながら記事を完成させています。“誰かが不得意だったら、それを補う誰かがいる”そんな「The チームワーク」によって毎月文章を書き上げています。

特集以外の原稿校正

読者の皆さんの中には、特集記事以外の「サラマッポフィリピン」、「ぼくと私の作文」、「ハロハロ」、「MJS 学校便り」、「診療所だより」、「理事コーナー」、そして各種同好会からの「サークルだより」の原稿もすべて、まぶはい編集委員たちが執筆候補者を見つけ、原稿を依頼し、締め切り日までに入稿してほしいとライターの方を催促するのでは？と思われていらっしゃる方もいるのではないのでしょうか。

実は、誌面を隅から隅まで熟読されている方ならご存知のことかと思われませんが、最後の「編集後記」のページの下に「原稿収集理事会」と記載されている通り、毎月特集記事以外の原稿を集めて下さる理事会さんがあらかじめ決まっています。

担当する理事会さんが締め切り日までに日本人会事務局の方に原稿を提出し、集められた原稿が担当班のところに転送されてくるのです。その後、編集委員が念のために誤字脱字のチェックをするという手順です。



それにしても、皆さん、色々と思う所があるものだなと、毎回様々な観点に感心しきり。知性と文才、さまざまな体験等に驚か

されることもしばしばです。

併せて表紙についての作業も行います。特集のテーマに沿った表紙の写真を選定して、表紙裏に記載するコメントを考え、双方合わせて日本人会事務局に提出します。表紙は外部発注で『まぶはい』唯一の「カラー」なので写真の選択にも力が入ります。

原稿最終チェック

こうして完成した特集原稿と寄稿されたその他の原稿に、挿絵を挿入し、一度すべてプリントアウトします。各班、多少やり方に相違はあるものの、最終的には印刷された紙で全体を見渡し、



今一度内容の検討と誤字脱字のチェックをしています。

そこに、日本人会事務局が準備してくださる広告記事を入れ込み、ページ番号を振って行けば最終原稿の完成となります。

編集会議

完成した最終原稿を製本するのに先立ち、最後に開かれるのが「まぶはい編集会議」です。これは広報担当の理事の方々とまぶはい編集委員が顔を揃え、内容について改めて話し合いをする場です。

特集記事は、担当班以外の編集委員や理事の皆さんに事前に目を通してもらうよう、予め事務局を通じてメールで送付されてい

ます。それは“何か気づいた点や、見落とした誤字脱字などがあれば会議の数日前までには指摘してもらおう”というチェック体制が敷かれているからです。

このまぶはい編集会議は、「正しい情報を読者にわかりやすく伝えたい」という編集委員の熱意と、経験に基づいた理事の方々の知的な意見が融合する、時に白熱した、時に和気あいあいとした情報交換の場となっています。

編集会議では、特集記事の内容検討の他、翌月以降の『まぶはい』の企画についても発表、意見交換が行われます。



原稿提出



編集会議で最終的に OK となった原稿は、会議で指摘された修正点などを反映した形で完成原稿としてプリントアウトし、日本人会事務局に提出します。

そして、いよいよ皆様のお手元に届く形にする印刷・製本作業へと移行するのです。



印刷・製本

『まぶはい』読者の皆さまの中には、印刷・製本の作業は日本人会事務局が外部業者に委託していると思っていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか？

いえいえ、実は印刷・製本といった作業まですべて日本人会の中で行われているのです。

私達編集委員が提出した原稿は、作業室においてスタッフの Edgar さんと Arnel さんの手でコピー機にかけられ、1枚ずつ丁寧に印刷されていきます。現在の『まぶはい』発行数は約 2,600



部（2016年2月現在）、毎号平均100ページ前後の両面印刷ですので単純計算で130,000枚を印刷しなければなりません！なんと気の遠くなる作業なのではないか…!!

一台しかないコピー機に交代で張り付き、ひたすら印刷をし続けるお二人の姿を拝見していると、こういう裏方の方々の存在こそを皆さんに知っていただきたい！という気持ちで胸がいっぱいになりました。

さて、印刷をし終えたあとは、そのまま製本作業に移ります。印刷された原稿の山をずらーっと



机の上に並べ、一枚ずつ器用に素早く取って一冊分に重ねていく姿はまさに圧巻！取材陣一同「ホーッ…」と感動のため息が漏れるほどでした。

その後、唯一外部業者に印刷を依頼している表紙（日本人会事務局にはカラーコピー機がないため）の間に原稿をはさみ、最後に端を大きなホッチキスでガチャン、ガチャンと留めれば『まぶはい』の出来上がりです。

この印刷から製本までの作業は、前出のお二人で15～20日間で仕上げるそうです。すごいですよねえ～!!



配布

こうして仕上がった『まぶはい』は、法人会員の方々には会社へまとめて、個人会員の方々には個々のお宅に配送業者を介して配られます。もちろん、配送用の封筒に『まぶはい』を入れ、宛先ラベルを印刷して貼り付ける作業も前出のお二人の作業です。



いかがでしたか？今お手元にあるこの『まぶはい3月号』がどのようにして作られたか分かっていただけましたでしょうか？



★編集委員に訊いてみました★

さて、実際の編集委員はどんな人達なのでしょう？座談会方式で訊いてみました。

司会：まず、皆さんがどのようにしてまぶはい編集委員になったのか経緯を教えてください。

委員A：私はこちらに来たばかりの右も左も分からない状態の時に、日本人会診療所で編集委員募集の貼り紙を見て興味を持っていたのですが、ちょうどその時に既に編集委員だった方に「やってみない？」と誘われ、即決で編集委員になりました。

一同：あの募集の張り紙を見て！？ そういう人もいるんだあ〜…（驚きの表情）。

委員B：私は同じ同好会に司会さんがいて、取材しているのを拝見しているうちに興味を持ち、やってみたいなあ〜と。

司会：そうなんですよお〜、いい人見つけた！うちの班に来てもらおう！って感じで（笑）。

委員C：私は3年ほど前に日本から来たのですが、主人の会社で



家族帯同は我が家だけで、フィリピンで生活するうえでの情報が一切入ってこなくて…。車も用意されてどこに行ってもいいですよ！と言われても、どこに行ったらいいのかも、何をしたらいいのかも分からず…。困っていた時にふらっと立ち寄った日本人会で事務局の方に相談したところ、こちらの活

動を紹介されたんです。ちょうどその翌日に、編集委員の集まりがあり、そちらを見学させてもらったのをきっかけに今に至っています。

委員D：私は編集委員の方に直接誘われて…。

司会：もともとこういった作業に興味があったんですか？

委員D：実は全く興味がなかったんです。文章も全然書けなくて、読書感想文なんて2行で終わり！みたいな。



一同：(笑)

委員D：そんなだから、私にできるのかしら？と思ったのですが、私もその時こちらに来たばかりで、新生活をする際にはお誘いがあれば乗ってみることにしていたのです。それで、ちょっと躊躇したのですが思い切ってやってみることにしたんです。

委員C：え!?意外とあっさりOKしてくれたと思ったけど…(笑)。

委員D：あはは…。ま、これも縁かなあ～と思ってね。

委員E：私も日本人会の同好会で一緒に編集委員の方に誘われて。Dさん同様に主人の会社の家族について来ているのが私だけという状況で、知り合いも少なく、新しい人間関係の中に入ってみたいなあ～と思って。暇も持て余していましたし…(笑)。

司会：そうなんです。Fさんはいかがですか？

委員E：Fさんは私が…(笑)。

委員F：(笑) 最初、他のボランティアをやっていて、Eさんが時々

まぶはいの活動に行かれたりするのを見ていて…。その時、Eさんの班の編集委員の方々が本帰国で帰られ、人数が少なくなったというのを聞いて、軽い気持ちで始めたんです。出来るかどうか不安だったんですけど、今はマイペースで楽しくやっています。

委員G：私は主人の会社の奥様が代々編集委員をやられていて、ほとんど「引き継ぎ」という感じで編集委員になったんです。

司会：それはもう逃げられない状況だったんですねえ～。

一同：(笑)

司会：ではHさんは？

委員H：私は以前今の自分の班で活動していた友達が本帰国になる際に、自分の後任を探していて、「フットワークが軽い」という理由で私に白羽の矢が立ったみたいなんです。それで、お力になれるのなら、ということで引き受けたんです。



委員I：私は司会さんに誘われて…。

司会：Iさんはどこに眠っていたの？この逸材！って感じだったんですよええ～。家で主婦しているだけじゃもったいないので、引っ張り出して皆でピカピカに磨き上げよう！と思って。案の定今じゃ「鬼」とも「神」とも言われる存在になって！

一同：(爆笑)

司会：では最後、Jさんは？

委員J：私は正式に編集委員になるまで時間がかかったんですよ～。お試し期間が1年半ぐらいあったかも。

一同：ええ～っ!! (驚愕) そんなに長く??どうして??

委員J：もともと文章とか書くのも苦手だし、本とか読んでも5行ぐらいで嫌になっちゃうし…。だから編集委員になった今もパソコンのことばかりやっている感じで。

司会：Jさんはパソコンが得意だから、レイアウトとか表紙とかそういう作業の方で活躍してもらっているんですよ～。最近はこちらこちら文章の方も書いてもらっているしね！
いやあ～、それにしても皆さんそれぞれに色んな経緯があってこの場にいらっしゃるんですね～。面白いです！
では、次の質問なのですが、編集委員になって自分の生活の中で何か変化がありましたか？

委員E：特集の内容によっては、普段の生活ではあまり接点がないような人に会ってお話を聞いたりできるのが楽しいですよねえ～。

委員D：あと、新しいお店や気になっているお店に「取材」として皆で行ってみたりできるのもいい点ですよ。普段自分だけだったらなかなか試せないし…。

司会：そうそう、私も編集委員になってからは車に乗っての移動中に、いつも窓の外をキョロキョロ見るようになったんですよ。何か新しいところないかな～?って。



委員H：そう！司会さんは間口がものすごく狭い店とかを見つけたりするんですよ～。

一同：(笑)

司会：それと、人の話をよく聞くようにもなりました。今までは興味がない話題の時は、聞いているふりをしながら適当に相槌を打っているといった感じだったのですが、委員になってからはこのネタ使えるかも？と思って一般的に色々聞くようになりました。



委員 I：私は結構出不精だったので、編集委員になってから色々な場所やお店の情報を聞けるようになり、すごく役立っています。インサイダー情報的な(笑)！?

一同：(笑)

司会：じゃあ、例えば編集委員になって嫌な思いや辛い思いをしたことってありますか？もちろん、締め切りに追われたりしている時はプレッシャーかもしれないですけど…。

委員 I：原稿で言えば、最後の最後になっての大幅な直しとかを言われるとかなり厳しいけどねえ～。

一同：そう！そう！それは本当にきついよね～!! (大賛同)



委員 I：あと、体を張った企画の時もちょっと辛いよねえ～…。食べ物系の特集とか。例えばパン特集でパンばかり食べるとかみたいなの。

司会：あー、私はアフタヌーンティー特集がきつかったな～…。

委員 C：ハロハロ特集とかね！お腹が冷え冷え。

委員 I：苦手なのに食べるとかも。

委員 E：それ、私～。修行の場だよな(笑)。

司会：他に何か嫌な思いとかは特に??

委員I：文章を書くのや編集作業が得意だとか、経験者だとか思われて、他の場所でそういったことを任せられるようになることがたまにあるかもね。

司会：あー、それは思われているかも知れないですね。本当は全くの素人の集まりなのにね。

委員H：年中編集作業で忙しいんだよね?と思われていることも。実際は3班に分かれて毎号1班ずつ担当しているんだけど、読者の方々は一年中ずっと取材や編集をしていると思うている方も多くて。

司会：確かに、毎月毎号を全員で作っていると思っている方もいるかも知れないですねえ。

委員D：そういった誤解が「大変そう」「難しそう」「忙しそう」みたいな印象になって、(委員になることへの)ハードルが上がってしまっていると思うんですよね。

司会：今回の特集で編集委員の具体的な仕事を皆さんに分かっていただき、興味を持ってもらえたらいいですよええ。

話は変わって、特集のトピックは皆さんどうやって決めているのですか?

委員D：それなんですよええ～
…(困惑顔)。

委員G：知りたいわ～、それ。

委員F：絞り出してます…。

委員G：今回とかは過去歴(編集委員に配られている過去の特集履歴表)を見てヒントをもらった感じです。



司会：私達も過去歴を見て、あー、この企画しばらくやっていないからそろそろリニューアルしてみようか？と決めたりする時もあるよね？

委員I：過去にやったことのない新しい企画とかをやるのはすごいと思う。今までやってなかったのは、

難しくてやれなかったっていう場合が多いものね。

委員D：あとは以前から興味があったこととかね。

委員C：そう！自分達の興味がないと絶対にやれないですよええ〜。その中からまとめられそうなトピックに絞って…。



司会：立案してもちゃんとした記事に出来るかなあ〜と不安に思うことはよくあって。そのトピックをどこまで上げられるかが分からなかったりするし。

委員H：取材を始めてからやっぱりダメだ…とボツになった企画とかありますか？

司会：私達はあったよね？取材している際に、あまり治安が良くないのではないかという話になり、読者にお勧めするのはいかがなものかと検討した結果、やめておこうということになったり。

委員G：あの店この店で取材したお店が、他の情報誌に先に出ちゃったりしたことはあるかも。

一同：たまにあるよね。

司会：トピックさえ決まれば何とかなると思うんだけど、その肝心のトピックを見つけるのが大変ですよええ。

委員H：私達もいくつかストックがあったのに、もうネタ切れになっちゃいました～。

委員E：読者層の幅が広くて老若男女問わず皆さんに興味を持ってもらわないといけない、というのがこれまた難しいところですよ～。

司会：やはりみなさん特集のアイデアには困っているということですよ～。本当は『まぶはい』を読んでいるみなさんから「これを特集してもらいたい!」「これを調べてみてほしい」みたいな意見がいただけると助かるんですけどねえ。

一同：ほんと、ほんと!!

司会：今後はどうやって読者の方々の声を取り入れて、誌面に反映するかというのも課題ですよ。では、最後の質問です。今までの特集の中で印象に残っているものがあつたら教えてください。

委員G：私は今年の盆踊り特集（2015年5月号）かな。自分が編集委員になったばかりの時だったので、「ああ、こんなに沢山取材するんだ…!」と驚いた覚えがあつて。



司会：盆踊りの掲載号はボリュームがありますからねえ～。

委員I：この間話していたのは、SPA 特集（2013年4月号）は今でも活用させてもらっているよね～と。

委員E：私は先日のサークル特集（2015年12月号）が良かったなあ。あの記事は他の情報誌には書けない『まぶはい』ならではの特集だと思いますよ。

委員 I : タガイタイ特集 (2014 年 9 月号) も良かったわ〜。



委員 C : あの取材のために合計 3 回タガイタイに足を運んだんですよ！

一同 : それは大変だったね。渋滞がすごいものねえ〜。

委員 A : 私は両親が来比した際に、あの号を片手にタガイタイを案内したんですよ。助かりました。

司会 : 旅特集の記事は、ガイドブックとして結構長く活用してますよね。

委員 I : いやあ、今回の選挙特集 (2016 年 2 月号) はやられたわ〜。出来がすごすぎる！レベルが高い！

司会 : そうそう、まさに皆が知りたかったことだったからね。インタビュー特集 (2014 年 11 月号) も印象に残っているわ〜。

委員 H : あれは今までで一番締め切りに間に合うかどうか気を揉んだ号だったかも。とにかくインタビューさせていただいた皆さん各々がご自分の話に思い入れが深くて。かと言って、インタビューすべてを載せるにはページ数が限られているし、どこをどう削らせてもらうかに四苦八苦した思い出が。



委員 I : 挿絵の似顔絵も似ていたものねえ〜(笑)。

委員 E : やっぱり、読者の方が読んで楽しいとか役立つとか思っただけの特集をやりたいですよねえ〜。

司会：そうですね。そのためにも読者の方々の声をもっとかがえたらいいですね。それが私たちの活動の励みにもなるでしょうし。

読者の皆さんに楽しんでいただける特集を目指してこれからもお互い頑張っていきましょう！

今日はどうもありがとうございました。

